

小林眞市長(右)から委嘱状を受け取る丹羽浩正会長。30日、八戸市庁



## 八戸ワインで セミナー開催へ

市南郷新規  
作物研究会議

八戸市は30日、市庁で市南郷新規作物研究会議の本年度初会合を開き、委員6人への委嘱状交付や役員の見直しを行ったほか、新規事業として八戸ワインをPRするセミナー「八戸ワインカレッジ」を開催すること

を決めた。

会議は、南郷地区の主要生産物だった葉たばこに代わる作物の研究を目的に、これまで地場産ワイン用のブドウや薬用作物の栽培事業に取り組む。会合では、会長に八戸学院大学長補佐の丹羽浩正氏、副会長にJXエルエヌジーサービス代表で日本ソムリエ協会ワイン検定認定講師の松田浩二氏を選出した。

ワインカレッジは9〜10月の計4回、松田氏らを講師に、テイスティングやブドウの摘み取り、醸造などを市民に体験してもらうことを確認した。

また、市はワイン用ブドウの生育状況について、全18品種がおおむね順調に育つ一方、一部地域や品種で枯死が相次いだと報告。2020年度まで試験栽培を続け、土壌や品種の適性を見極める方針を示した。

(井上周平)